



いいことすると、いいことが返ってくる

夏の最後の大会が近づくと思い出す出来事が一つあります。それは、「いいことすると、いいことが返ってくる」と、初めて卓球部の監督になったときに何気ない会話の中で、選手たちに話したことです。なぜそんな話をしたかも覚えてなく、ただ最後の夏の大会に向けて、選手に何を話したらよいのか分からず、まして、若い監督の言うことなど誰も聞かないだろうと思い、思わず昔からよく言われてきたことをそのまま伝えたのだと思います。

夏の大会は、勝てば次の大会に進むことができますが、負ければ3年間続けてきた部活動は終わりを迎えます。どの部も少しでも長く、そして、仲間と一緒に過ごしたいと願っています。このときの卓球部は、団体戦では西三大会出場で終わってしまいましたが、個人戦で、二人の選手が県大会に出場することができました。県大会へは、西三河地区で12名の選手しか出場できません。その中の二人ですが、一人は7番目、もう一人は、11番目とぎりぎりでの通過でした。11番目に通過した選手(A)が、県大会を通過し、東海大会へ進むことは聞いたことがないです。近くにいた誰もが、「県大会は楽しんでやってくるように」と部活動の終わりを想像していました。私もその一人でした。

県大会の昼休憩です。Aの仲間が

「Aは、運がいいよな。相手が打ちミスをしたり、ネットインでボールが入ったりと、ここで点が入るといいなあと思うと入っている。すごいよな。」

と、声をかけました。すると、Aは、

「僕、いいことしているよ。風呂掃除を毎日したり、玄関掃除や靴を揃えたりしてきたよ。いいことすると、いいことが返ってくるんだよね。ねえ、先生。」

と、言ってきたAに私は、思わず、笑いそうになってしまいました。でも、Aにとっては真面目に真剣に、最後の夏の大会に向けて、自分でやると決めたことを続けてきたのだと思います。このことが、それまでの練習に加え、「いいことをしてきたのだから」という心の支えになったと思いました。Aは、その後の試合も勝ち続け、11番目の選手が、愛知県代表として東海大会に出場することができました。私にとって東海大会に出場する最初の出来事でした。

私は、この出来事のおかげで、最後まで頑張ってきた選手、チームに声をかける大切さを教わったような気がします。何気ない話でも、選手にとっては心の支えとして、モチベーションを高めようと考えた行動の一つだと思います。しかし、同時に大会に選手を気持ちよく送り出したい。緊張する中で、支えとなるような言葉をかけたいと、私を毎年のように悩ませてきた出来事の始まりでもあります。

かつて侍ジャパンの大谷翔平選手は「あこがれるのは、やめましょう」と選手に言葉をかけることで、チームがまとまり、やる気を引き出すことができました。今年のチームに先生たちが、最後にどんな言葉をかけて、選手を、チームを送り出すのか、送り出したのか、楽しみの一つです。

「いいことすると、いいことが返ってくる」



岡幸大会の様子

校内体育大会

令和6年5月30日（木）

昨年度から時期を変更し、過ごしやすい気候の中で実施されました。縦割り団による演舞をクラスごとの「学級アピール大合戦」とし、各クラスの団結力を競いました。

3年

学級アピール大合戦では、短い準備期間でしたが、休みの時間も使ってたくさん練習しました。はじめはダンスを踊ることにに対して恥ずかしいという気持ちでしたが、全力で楽しく踊ろうという意識をもつことで、上手にダンスが踊れるようになりました。本番が近づくにつれてクラスのみんなが一致団結している感じがしました。優勝することはできませんでしたが、クラスのみんなで全力を出し切ることができてよかったです。

3年

昨年悔しい思いをした1500メートルに再び出場しました。昨年は途中まではよかったもののスパートで抜かされてしまいました。本番では、部活動で今泉先生に教わってきたことや昨年の敗因を生かして走りました。いつもより早い段階からスパートをかけたことで、自分の目標タイムを超えて個人種目で優勝することができました。今日までの努力を忘れず、これからも目標に向かって努力し続けていきたいです。



2年

テスト前から、クラスで学級アピール大合戦について考えてきました。ダンスの練習では、初めは足の動きがとても難しく苦労しました。しかし、みんなで何度も練習を重ね、本番が近づくにつれて全員の動きがそろっていくのを感じ、うれしかったです。本番は少し緊張しましたが、全力で楽しんで踊ることができ、みんなが笑顔で最後までやりきることができました。別のクラスの友達から「2組の動きが、とてもそろっていたよ」と言ってもらえてうれしかったです。みんなで2組らしいダンスを創り、それを楽しく踊ることができたので良かったです。

2年

私たち2年5組は、級訓「RPG」と、そこに込められた「相互扶助」を表現しようと決めました。ダンスは、細かい部分を意識したことによって一体感が出たと思います。また、演技中の移動も、みんなで声を掛け合い少しでも良いものにしようと頑張りました。友達が表情の作り方をみんなにアドバイスしてくれて、雰囲気も明るくなってきました。

体育大会本番、教えてもらった表情にも意識しながら練習の成果を出し切れたと思います。みんなで創った5組のダンスを全力で披露できて良かったです。



1年

ぼくが出場した種目は、ハンデリレーでした。アルミ缶運びは団結力が大切な種目です。力をまっすぐに出し合って取り組みました。スタートは遅れてしまいましたが、2チームを抜かして、次のランナーにバトンを届けることができました。それぞれのチームの団結力が見られたし、逆転が多くあったリレーなのでとても面白かったです。チームで協力して楽しめたので、良かったです。

1年

学級アピールでは、前でたくさん声を出してくれたリーダーや振りつけを考えてくれたダンスリーダーがいました。そして、みんなの意見を聞いて試行錯誤しながら小道具を作った人たちがいました。そして、何より一生懸命に取り組んだみんながいたから優勝できました。

個人種目の記録よりもずっとずっと、アピールで優勝したことがうれしかったです。



各競技種目優勝者・クラス

100m走

- 1年
- 2年
- 3年

1000m走・1500m走

- 1年
- 2年
- 3年

80mハードル走

- 1年
- 2年
- 3年

走り幅跳び

- 1年
- 2年
- 3年

走り高跳び(2・3年生のみ)

- 2年
- 3年

ハンドボール投げ

- 1年
- 2年
- 3年

ハンデリレー

1年1組 2年4組 3年1組

幸中リレー

1年2組 2年1組 3年1組

競技総合

1年1組 2年2組 3年1組

新記録賞

100m走 13秒61

学級アピール大合戦

1年5組 2年1組 3年1組



福祉実践教室

令和6年6月25日（火）

1年生が、5つの講座に分かれ、体験を行ったり、講話を聞いたりしました。生徒は心を働かせて「共生」について学びました。

1年

高齢者疑似体験では、耳栓や手袋、重りをつけました。階段を上ったり降りたり、豆を皿から皿へ移したりしました。初めは簡単だろうと思っていましたが、体験してみたらとても大変でした。

今回の体験を通して、高齢になると、目や手足が不自由になり大変だと学んだので、これからは、高齢者の方を見かけたら、手伝えることは手伝いたいと思いました。

1年

精神障がい者理解の講座では、日本が世界より精神障がい者への理解が遅れているということが分かりました。

手話の講座では、初めは難しいと思っていたけれど、例えば動物を伝えたいときはその動物の特徴を身振り手振りで伝えればよいことを学びました。とても楽しかったし、手話を身近に感じる事ができて良かったです。



顕彰記録

<第68回岡崎市中学校総合体育大会>

弓道部

男子団体 優勝

個人 1位

2位

<第70回全日本中学校通信陸上競技会兼第51回
全日本中学校陸上競技選手権大会西三河予選>

中学共通女子 200m 2位

中学共通女子 100m 3位

○ さんは、8月に福井県で開催される全国大会
に出場することになりました。
おめでとうございます！



熱い熱い、岡幸大会続く！